

経済・金融 フラッシュ

【東南アジア経済】 ASEANの輸出動向(9月号) ～急低下で底打ちが見通せない展開に

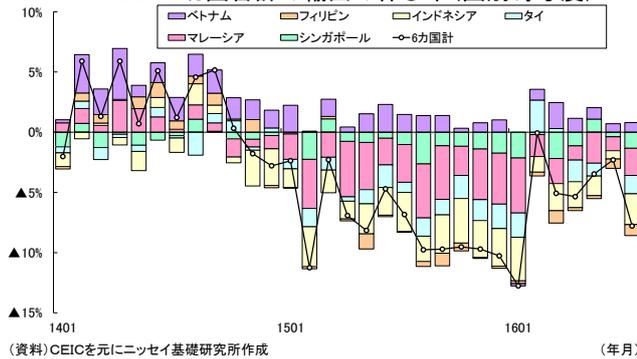
経済研究部 研究員 齊藤 誠

TEL:03-3512-1780 E-mail: msaitou@nli-research.co.jp

16年7月のASEAN主要6カ国の輸出（通関ベース）は前年同月比7.8%減と、低調な海外需要と農産物や原油・ガスなどの価格低迷が重石となって前月の同2.3%減から低下した（図表1）。輸出の減少幅は年明けから顕著に縮小してきたものの、ベトナムを除く5カ国が7月に揃って急落したことで年内の底打ちは見通しにくくなった。8月の中国の輸入額が前年同月比1.5%増とプラスに転じ、この7月のASEANの輸出の下振れは一時的なものとなる可能性もあるが、先行きの輸出動向を慎重に見ていく必要があるようだ。

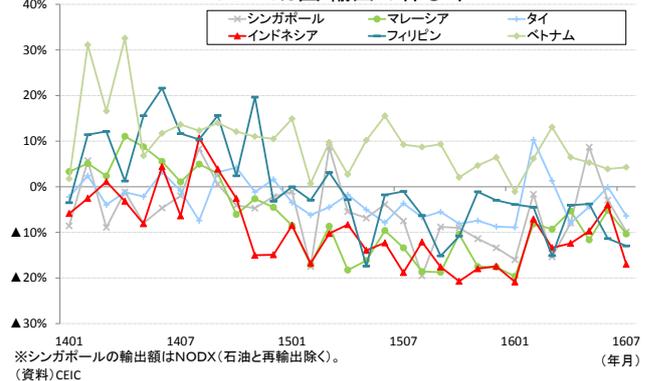
(図表1)

(前年同月比) ASEAN6カ国合計の輸出の伸び率(国別寄与度)



(図表2)

(億ドル) ASEAN6カ国 輸出の伸び率

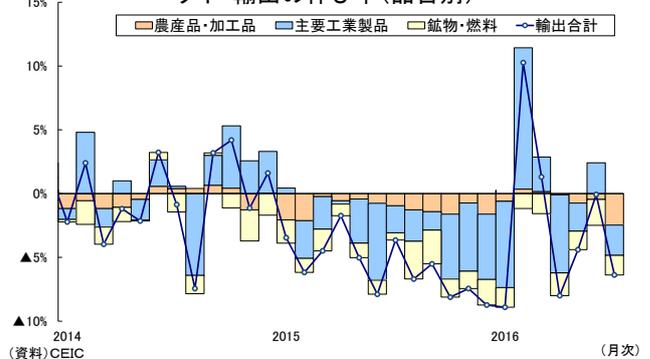


タイの16年7月の輸出額は前年同月比6.4%減（前月：同0.1%減）と、前月に好調だった自動車輸出が急落して低下した（図表3）。輸出数量指数も同4.8%減（前月：同2.3%増）と低下した。

品目別に見ると、主要工業製品は同3.1%減（前月：同3.1%増）と2ヵ月ぶりのマイナスとなった。自動車・部品（同16.9%減）をはじめ、電子製品・部品（同3.8%減）、電子製品（同2.4%減）、機械・装置（同6.7%減）など幅広い品目で低下した。また農産品・加工品も同14.2%減（前月：同2.7%減）と、コメ（同35.1%減）やゴム（同34.8%減）、砂糖（同33.0%減）、魚の缶詰（同7.4%減）を中心に大きく低下した。鉱業・燃料（同31.1%減）は引き続き大幅なマイナスを記録した。

(図表3)

(前年同月比) タイ 輸出の伸び率(品目別)



マレーシアの16年7月の輸出額は前年同月比5.3%減（ドルベースでは同10.4%減）と、前月の同3.4%増からマイナスに転じた（図表4）。石油・ガスの輸出の落ち込みは和らぎつつあるものの、これまで堅調に増加していた機械類が減少したことが全体を押下げた。また輸出数量指数についても同2.0%減と、前月の同7.4%増から2ヵ月ぶりのマイナスとなった。

品目別に見ると、全体の約4割を占める機械・輸送用機器が同5.2%減（前月：同5.4%増）と、電気・電子製品や通信・音響機器を中心に大きく低下し、15ヵ月ぶりのマイナスとなった。また鉱物性燃料は同9.4%減（前月：同2.6%減）と、原油や天然ガスこそ上昇しているものの、石油製品を中心に低下した。このほか動植物性油脂は同6.1%減（前月：19.3%減）と、パーム油を中心にマイナス幅が縮小した。

インドネシアの16年7月の輸出額は前年同月比17.0%減（前月：同4.0%減）とマイナス幅が拡大した（図表5）。鈍い海外需要と資源の価格低迷に7月上旬のレバラン（断食明け大祭）で営業日数が少なかったことが重なり、輸出が大きく下振れた。また輸出数量は同5.9%減（前月：同9.3%増）と、再びマイナスに転じた。

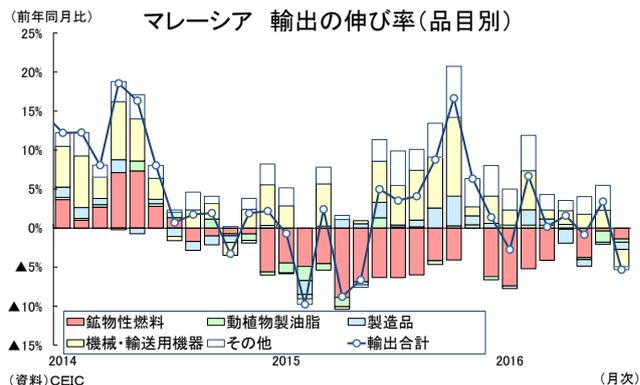
品目別に見ると、輸出全体のそれぞれ1割強を占める石油ガスが同29.8%減（前月：17.5%減）、鉱業製品が同25.4%減（前月：同26.9%減）と、引き続き全体の重石となっている。また農産物が同39.5%減（前月：13.2%減）と低下し、製造品も同11.5%減（前月：同1.9%減）と機械類や電気機械、アパレルを中心に低下した。

ベトナムの16年7月の輸出額は前年同月比4.3%増（前月：同3.9%増）と製造業を中心に増加傾向を維持しているが、足元では伸び悩みが目立つ（図表6）。

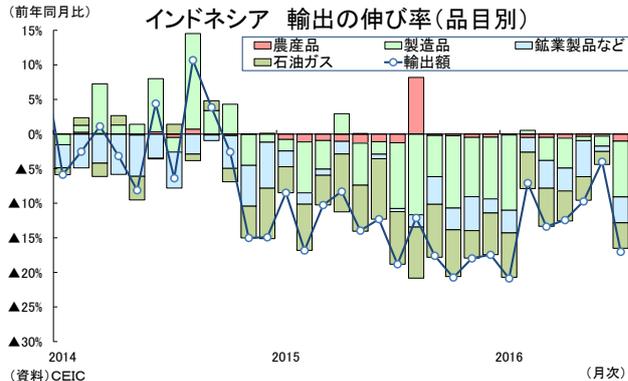
品目別に見ると、輸出全体の約2割を占める電話・部品が同5.7%増（前月：同0.4%増）が4ヵ月ぶりに上昇したほか、コンピュータ・電子部品も同25.3%増（前月：同12.4%増）と一段と上昇した。一方、織物・衣類は同2.0%減（前月：同7.0%増）と5ヵ月ぶりのマイナスとなったほか、履物も同3.4%増（前月：同5.6%増）と低下した。

資本別に見ると、地場企業が同2.1%減（前月：同1.9%減）と小幅に低下したものの、輸出全体

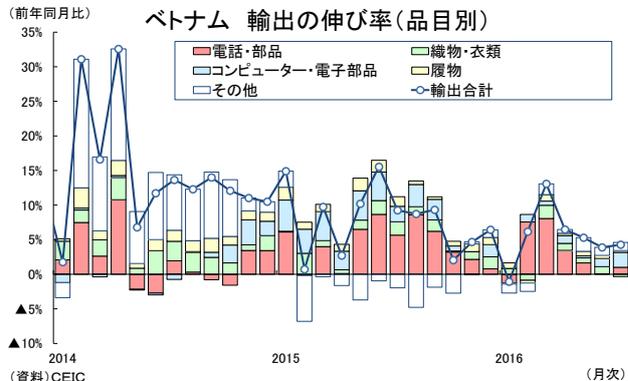
(図表 4) マレーシア 輸出の伸び率(品目別)



(図表 5) インドネシア 輸出の伸び率(品目別)

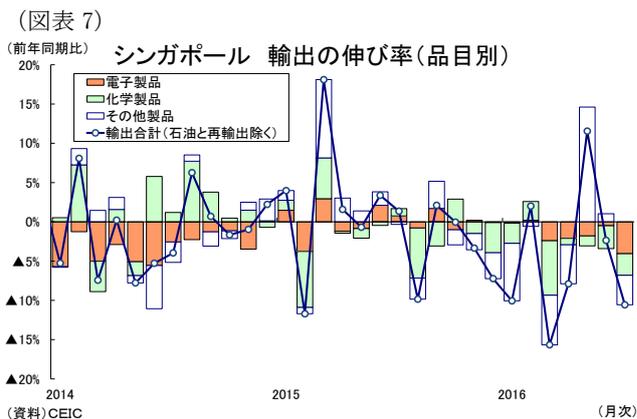


(図表 6) ベトナム 輸出の伸び率(品目別)



の7割を占める外資系企業が同7.4%増（前月：同6.6%増）と上昇した。

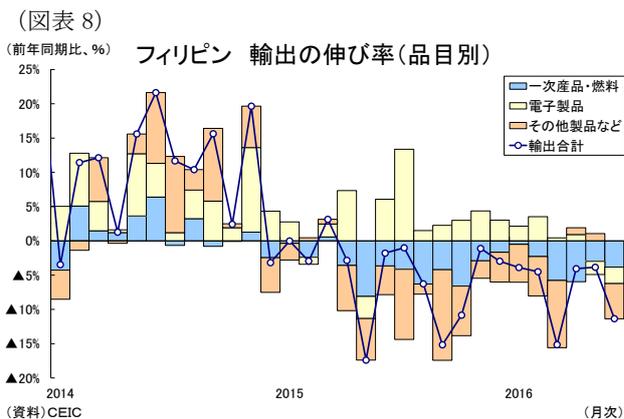
シンガポールの16年7月の輸出額（石油と再輸出除く）は前年同月比10.6%減（米ドルベースでは同9.9%減）と、前月の同2.4%減から低下した（図表7）。5月は英EU離脱を問う国民投票を控えて安全資産である金輸出の拡大で上ぶれたとはいえ、6月も輸出のマイナス幅は小さく、輸出の減少傾向には歯止めが掛かりつつあるかに見えたが、7月は期待外れの大幅な減少となった。



品目別に見ると、輸出（石油と再輸出除く）

全体の約3割を占める電子製品は同4.1%減（前月：同0.5%減）とマイナス幅が拡大した。前月まで堅調だった通信機器（同23.4%減）をはじめ、IC（同1.0%減）、PC（同36.0%減）、PC部品（同18.8%減）、ダイオード・トランジスタ（同19.5%減）など主要5製品が軒並み減少した。また同じく全体の約3割を占める化学製品は同9.3%減（前月：同9.0%減）と石油化学製品を中心に低迷したほか、その他製品も同9.6%減（前月：同2.7%増）とマイナスに転じた。

フィリピンの16年7月の輸出額は前年同月比13.0%減と、前月の同11.4%減から一段と低下した（図表8）。年初まで輸出を牽引してきた電子製品が3ヵ月連続のマイナスとなっており、輸出不振の長期化が懸念される展開になってきた。



輸出シェア上位10品目を見ると、まず輸出全体の約5割を占める電子製品は同14.8%減（前月：同5.1%減）と更に低下した。電子製品の中では、電子データ処理機が同18.6%増と4ヵ月連続の二桁増となる一方、半導体デバイスが同24.4%減と5ヵ月連続のマイナスとなった。その他9品目は、ココナッツオイル（同42.6%増）とその他製造品（同7.7%増）が増加したものの、機械・輸送用機器（同36.8%減）、木工品・家具（同24.2%減）、その他鉱産物（同18.9%減）、化学（同18.7%減）、アパレル（同14.0%減）、イグニッションワイヤーセット（同1.8%減）、金属部品（同1.7%減）など幅広い品目が減少した。

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。